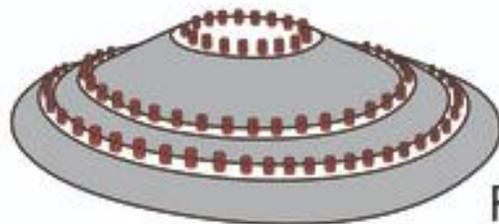
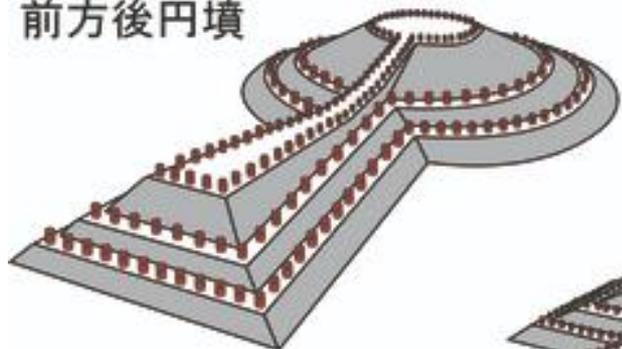
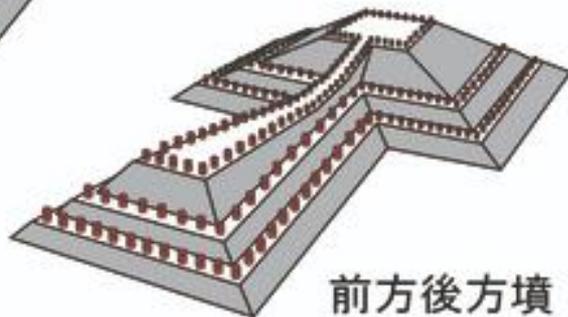


古墳の形と大きさ

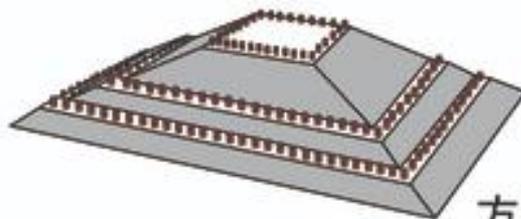
前方後円墳



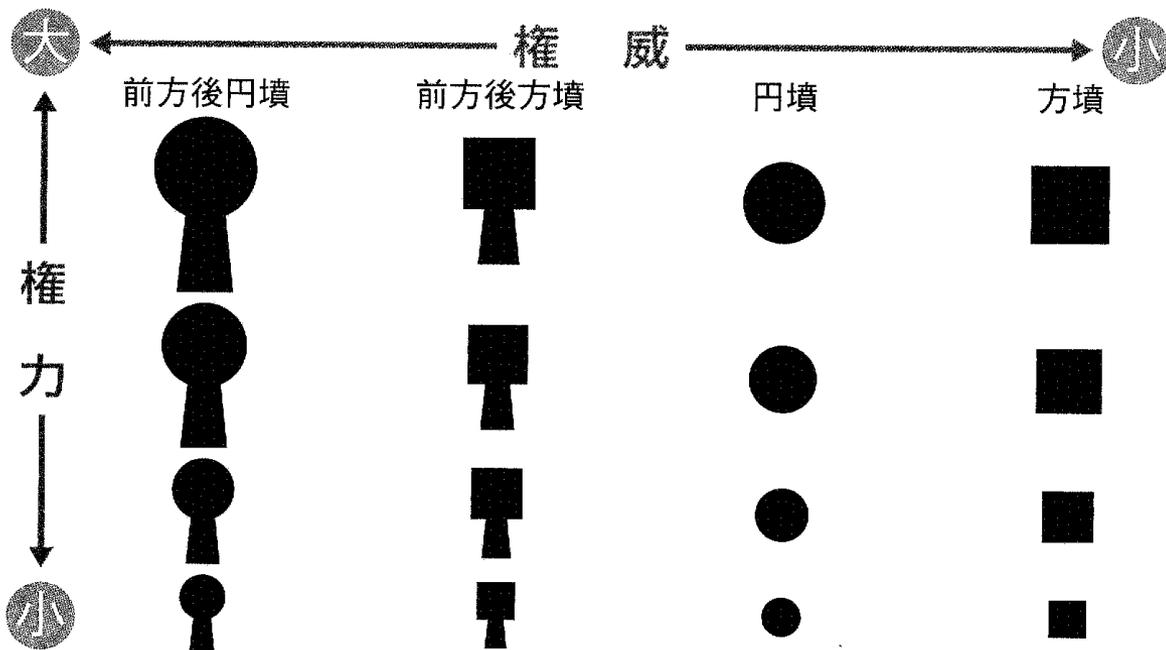
円墳



前方後方墳



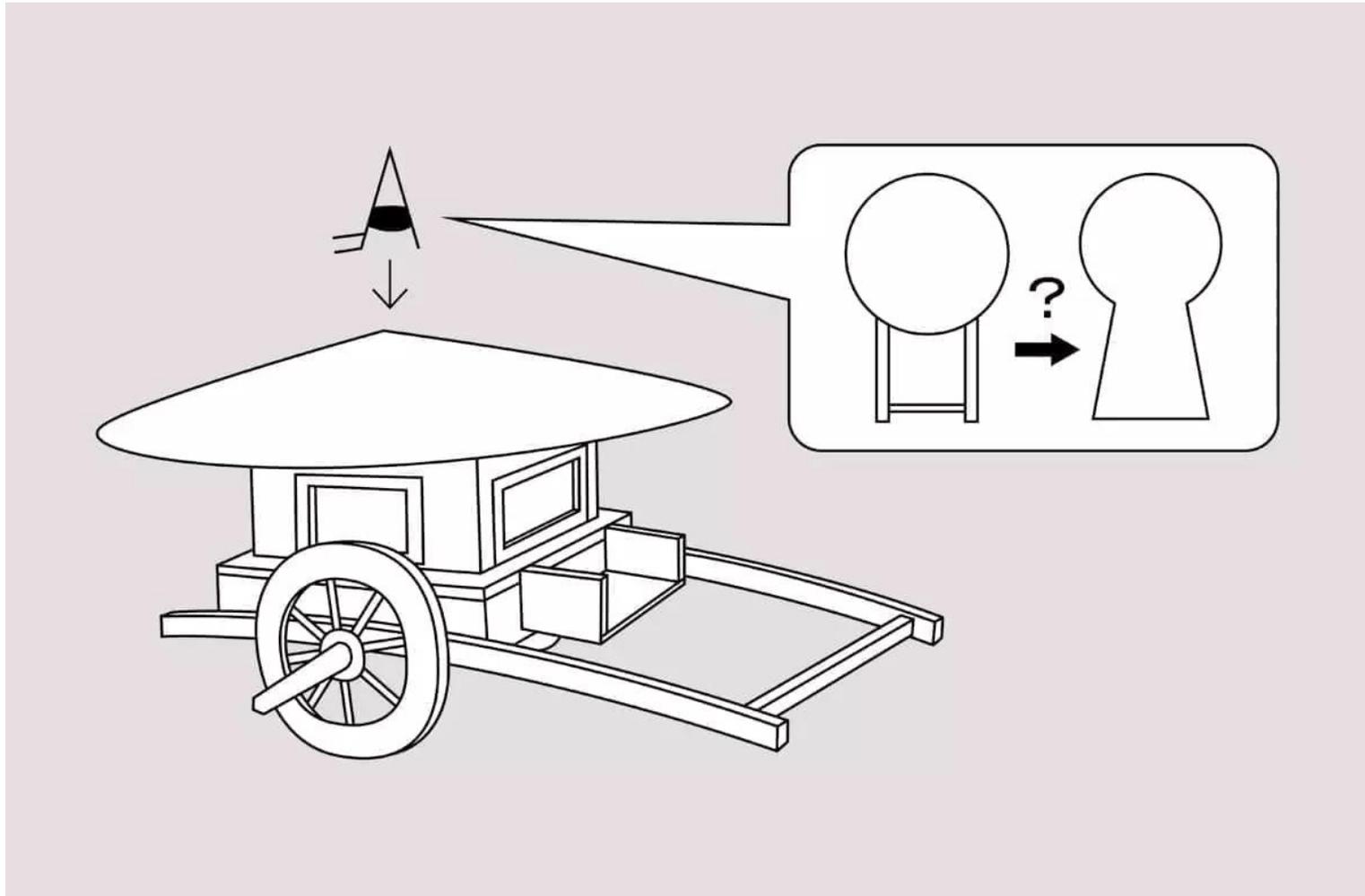
方墳



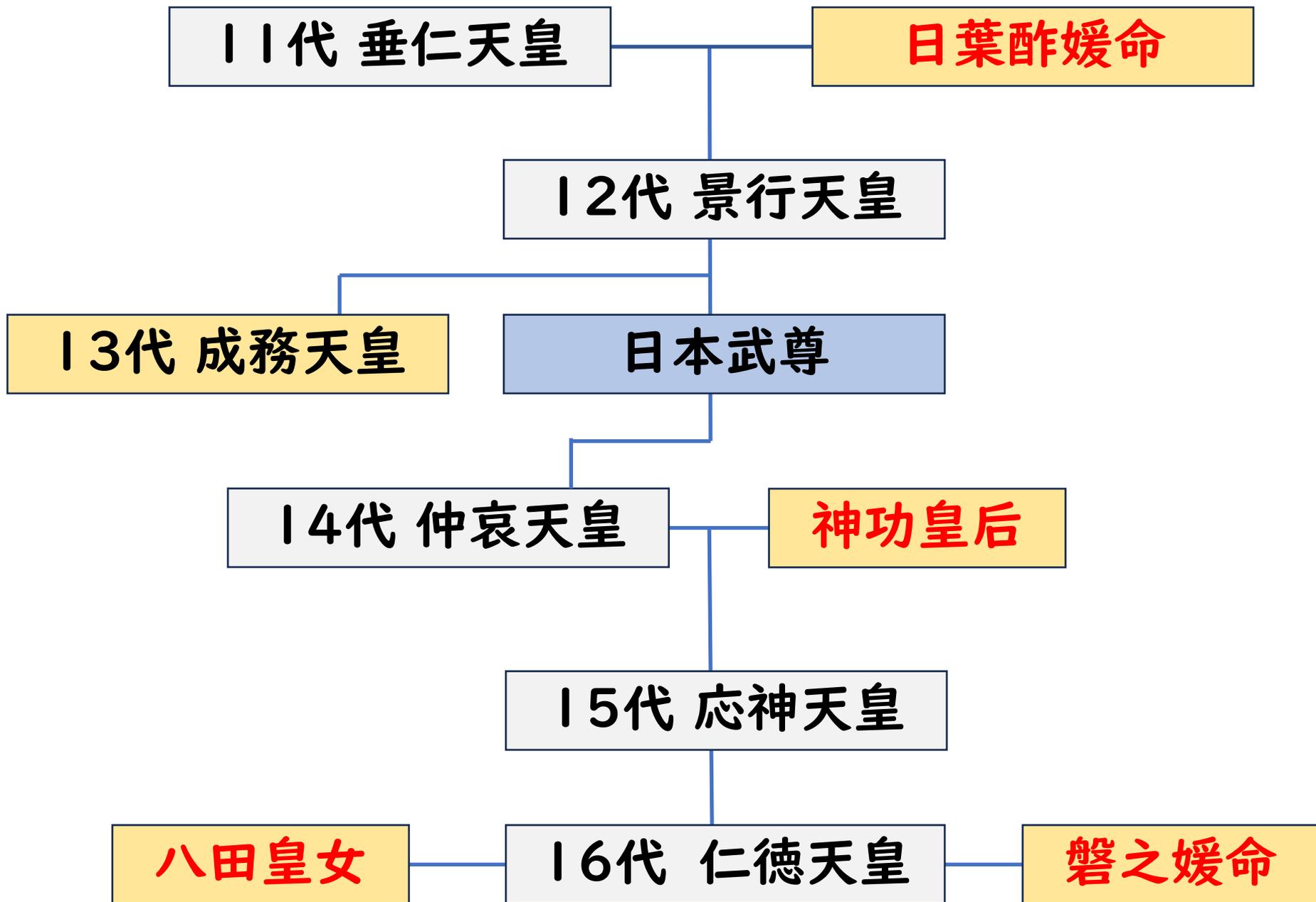
前方後円墳の名付け親は？

「前方後円墳」の名前は江戸時代に蒲生君平（江戸時代後期の儒学者で尊王論者）が著した『山陵志(さんりょうし)』という書物に初めて登場した。

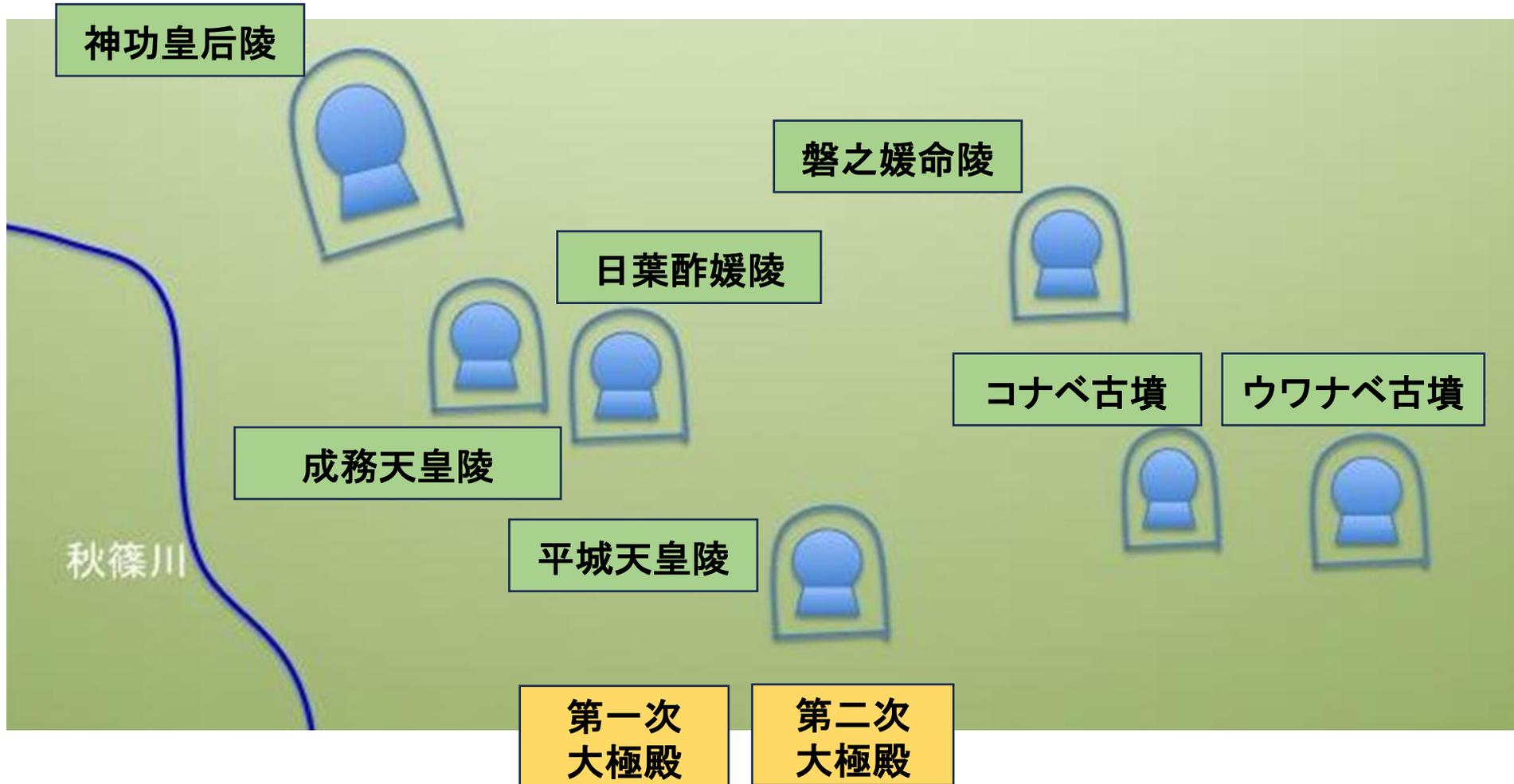
その形状を、貴人を乗せる牛車になぞらえて、牛が引っ張る長柄の部分が陵墓の前方部に似ており、貴人が乗る牛車の本体側が後円部に当たるという見立てで名づけられたらしい。



佐紀盾列古墳群コース 関係する天皇の系図



佐紀盾列古墳群(一部)



- ・ 4～5世紀の築造
- ・ 佐紀丘陵南面 東西2.5km、南北1.5km の範囲に 約50基の墳墓
- ・ 全長200m超の古墳が8基存在
- ・ 佐紀盾並古墳群に属する前方後円墳のほとんどは
「前方」が南側、「後円」が北側 ⇒ 空から眺めると盾が並んでいるように見える ⇒ 「盾列」

佐紀盾列古墳群コースで訪れる古墳

古墳名	宮内庁治定名 等	全長	順位	築造
五社神古墳	神功皇后陵	276m	全国11位	4世紀末
佐紀石塚山古墳	成務天皇陵	220m	全国24位	4世紀末
佐紀陵山古墳	日葉酢媛命陵	208m	全国27位	4世紀末
市庭古墳	平城天皇陵	250m?	—	5世紀前半
ヒシアゲ古墳	巖之媛命陵	219m	全国25位	5世紀中頃
ウワナベ古墳	矢田皇女陵墓参考地	265m	全国13位	5世紀中頃
コナベ古墳	巖之媛命陵墓参考地	204m	全国31位	5世紀中頃

山陵八幡神社(みささぎはちまんじんじゃ)

●創建年代不詳

神功皇后陵の南側に位置することから 神功皇后陵と深い関係を持つ

●祭神

気長足媛命(おきながたらしひめのみこと) = 神功皇后…武芸の神

品陀和気命(ほんだわけのみこと) = 応神天皇…厄除開運の神

玉依媛命(たまよりひめのみこと) = 初代天皇 神武天皇の母…育児の神

神功皇后とは

- ・ 第14代 仲哀天皇の皇后として九州の熊襲征伐に随伴、筑紫で神憑りとなり「瘦せた土地に居る熊襲ではなく、海を渡って金銀財宝のある国（新羅）を攻めよ」の神託を伝える
- ・ 仲哀天皇はこの神託を信じず、熊襲を攻めるも敗退、神罰により崩御
- ・ 神功皇后は身重の身体で男子（後の応神天皇）を体内に宿したまま熊襲征伐を遂げた後、朝鮮半島に渡って新羅を攻め、百済、高麗をも服属させた ⇒ 三韓征伐
- ・ 新羅との戦いの間に臨月を迎えた神功皇后は、二つの「石」（月延石：つきのべのいし、鎮懐石：ちんかいせき）を腹部に当てさらしを巻いて身体を冷やし、出産を遅らせたとされている
- ・ 帰国後、出産した神功皇后は、国内の敵対勢力（仲哀天皇の長男、次男）に打ち勝ち都へ凱旋。
息子（後の応神天皇）が立太子するまで70年間に亘って摂政を勤め、享年100歳で崩御した
- ・ 三韓征伐以降 渡来人が増加し、多数の大陸の文物や技術が導入された

佐紀神社 亀畑 西畑 釣殿神社

●佐紀神社 亀畑

- ・創建 白鳳3年
- ・祭神

天児屋根命(あめおこやねのみこと)

⇒文学に秀でた神。中臣氏及び藤原氏の祖神(おやがみ)に当たる存在。

経津主命(ふつぬしのみこと)

⇒タケミカツチと共に、東方の征圧に尽力した武の神。

古事記では、タケミカツチと同一視されるため物語には登場せず、
日本書紀のみに登場する。

六御懸神(むつのみあがたのかみ)

⇒高市・葛木・十市・志貴・山辺・曾布の六御県に坐す神で
五穀・食物を守護する

●佐紀神社 西畑

- ・創建 江戸時代に佐紀神社亀畑から分祀
- ・祭神は 亀畑と同じ

●釣殿神社

- ・創建年不詳 江戸時代に亀畑の佐紀神社から分祀？
- ・祭神の一柱は 市杵嶋姫(いちきしまひめ)
⇒絶世の美女神、「海の神・水の神」、
弁財天と習合し芸能を司るとも言われている